

アドビ、企業向けにクリエイティブワークフローを自動化する 「Adobe Firefly Graph エンタープライズ版」と「Adobe Firefly Creative Production エンタープライズ版」を提供開始

～Adobe Brand Intelligence にシミュレート機能が新たに追加～

【2026年7月6日】

アドビ株式会社（本社：東京都品川区、社長：マニダール ソーニー、以下アドビ）は本日、企業向けにクリエイティブワークフローの自動化を実現する「[Adobe Firefly Graph エンタープライズ版](#)」と、そのワークフローを制作現場で大量実行・運用する「[Adobe Firefly Creative Production エンタープライズ版](#)」の提供開始を発表しました。両製品により、企業はコンテンツ需要の急増という構造的な課題に対応しながら、クリエイティブ制作のノウハウを組織全体で資産化・共有し、一貫性のあるコンテンツを効率的に繰り返し制作できます。また、クリエイターは単純作業から解放され、より創造的な業務に集中できるようになります。さらに、ブランドの一貫性を損なうことなくコンテンツの大規模展開を可能にする [Adobe Brand Intelligence](#) にシミュレート機能が追加され、企業はマーケティング施策の実施前に反応を予測し、より効果の高いキャンペーンを実行できるようになります。

生成 AI の業務活用が一般化する中、画像生成 AI も普及が進んでいます。アドビが 2025 年 12 月に発表した調査(※1)では、回答者の約 60%が画像生成 AI をアイデア出しや社内資料のデザインに活用している一方、著作権侵害や情報漏洩への懸念から社外向け資料での活用は 20%にとどまっています。また、コンテンツ制作需要は 2024 年から 2026 年の 2 年間で 5 倍に増加(※2)しており、制作の効率化・生産性向上が企業の喫緊の課題です。部分的な導入は進むものの、バリエーション作成や配信用サイズ展開といった煩雑な作業がボトルネックとなり、投資対効果を示せないまま全社展開に至らないケースが多く見られます。アドビは、単発の機能ではなく制作プロセス全体を自動化・資産化する仕組みでこの課題の解消を目指し、企業が組織全体でクリエイティブ制作の最適化を実現する支援を行ってまいります。

Adobe Firefly Graph エンタープライズ版

Adobe Firefly Graph エンタープライズ版は、AI を活用したクリエイティブワークフローを構築するためのビジュアルキャンバスです。Adobe Photoshop、Adobe Illustrator、Adobe Premiere に搭載されているクリエイティブテクノロジーと、Adobe Firefly をはじめとする業界をリードする AI モデルを、単一の統制されたワークフローに統合します。企業のクリエイティブチームは、単発のプロンプトに依存せず、生成 AI と編集プロセスを体系的に管理・共有することで、クリエイティブ制作の効率化と品質の向上を実現します。主な特長は以下の通りです。

- **再現可能なワークフロー設計**：生成 AI とクリエイティブツールを組み合わせ、編集・生成プロセスを構造化し、高品質なアウトプットを安定して反復生成できます。Adobe Firefly とパートナーモデルから 300 種類以上のマルチモーダルなノードと生成アクションを連携し、エンドツーエンドのクリエイティブワークフローを構築します。
- **主力ワークフローをチーム間で共有および展開**：ワークフローを組織全体で保存・共有し、再利用可能なコンポーネントとして管理することで、制作のスピードと一貫性を向上させます。

Adobe Firefly Creative Production エンタープライズ版

Adobe Firefly Creative Production エンタープライズ版は、量産（プロダクション）工程に特化した新製品です。制作テンプレートの管理、バリエーション作成、大規模な自動化、ブランド・アセット検証までを統合し、企画・量産・配信という一連の流れをカバーします。コンテンツ需要の急増に対応するため、これまで人手に頼っていた煩雑な量産作業を自動化し、デザイナーが創作に専念できる環境を実現します。また Frame.io との連携により、レビュー・承認プロセスまでシームレスにつながり、コンテンツ制作全体を加速します。

本製品に含まれる機能の一つが「**Workflow Builder**」です。複数の生成 AI モデルを横断してワークフローを構築・展開する仕組みで、主な特長は以下の通りです。

- **AI モデルを自由自在に**：Adobe Firefly から Google や OpenAI などのパートナーモデルまで、AI エージェントが複雑な工程を一つに統合し、高度なアウトプットを実現します。
- **作って、配備して、動かす**：一度構築したワークフローは形式を問わず資産として再利用でき、組織全体への展開もスムーズに行えます。
- **途切れない制作体験**：既存の制作環境（Photoshop、Premiere、Illustrator、InDesign など）と深く連携し、アセットの出し入れを自動化することで、制作の「供給網」そのものを加速させます。

Adobe Brand Intelligence シミュレート機能

Adobe Brand Intelligence に新しく追加されたシミュレート機能を通じて、企業はキャンペーン実施前にコンテンツの受容性を予測できます。現在のマーケティングは多くのデータを保有する一方で、公開後のデータに頼ることによる意思決定の遅れ、コンテンツ増加による反復コストの増大、無難な選択を優先することによる創造性の制限といった課題があります。シミュレート機能は、実データに基づく「合成オーディエンス」を活用することで、従来のペルソナよりも現実に近い条件での評価を可能にし、公開前にオーディエンスの反応を予測します。インサイトを意思決定の上流に組み込むことで、まだ手を打てるうちに「何が効くか」を判断できるようになり、より精度の高い意思決定を支援します。主な特長は以下の通りです。

- 実際の顧客データに基づいた「合成オーディエンス」により、個別のペルソナを構築し、セグメントやパネルへと集約することで、常時利用可能な仮想フォーカスグループを実現
- 初期コンセプトから完成アセットまで、開発の各段階でテスト可能
- スコアだけでなく、メッセージ・トーン・明確性・全体印象に関する定性的インサイトも取得
- ブランド適合を検証しながら、アイデア選定・意思決定のスピードアップ・関係者間の早期合意形成を支援

提供開始時期

Adobe Firefly Graph エンタープライズ版は Adobe Creative Cloud エンタープライズ版エディション5で、そして Workflow Builder は Adobe Firefly Creative Production エンタープライズ版でそれぞれ本日からご利用いただけます。さらに、シミュレート機能は Adobe Brand Intelligence にて本日よりご利用いただけます。

※1 出典 アドビ 2025 年 12 月 23 日発表「[生成 AI の業務活用実態調査](#)」

※2 米国、オーストラリア、フランス、ドイツ、インド、日本、英国を含む市場の 2,841 人のマーケターを対象としたアドビの調査（2024 年 2 月 27 日～3 月 7 日実施）

■「アドビ」について

アドビは創造性、生産性、そしてパーソナライズされた顧客体験を実現する革新的なプラットフォームとツールを提供し、-Empowering everyone to create- すべての人が創造力を発揮できるよう支援してまいります。

アドビに関する詳細な情報は、web サイト (<https://www.adobe.com/jp/about-adobe.html>) をご覧ください。

© 2026 Adobe. All rights reserved. Adobe and the Adobe logo are either registered trademarks or trademarks of Adobe in the United States and/or other countries. All other trademarks are the property of their respective owners.